

# 活動性を重視した新たな中学校制服のデザイン

New junior high school uniform design with emphasis on activity

加藤 万紀

KATO Maki

## I. はじめに

これまで、加藤（2023）<sup>注1)</sup>、（2024）<sup>注2)</sup>では、コロナ禍における公立中学校の制服に対するアンケート調査をもとに、今日的な制服の問題の究明と新たなデザイン提案についての概要や求められるデザイン要素を導いてきた。アンケート調査からは、コロナ禍に制服ではなく指定ジャージでの登校が多くなった状況や現在着用している制服に対する問題点を指摘しながらも、主には学校行事や儀式、テスト、受験などの場面で制服が必要であるという理由から、学校制服はあった方が良く考える生徒、保護者、教員が多いことが明らかとなった<sup>注3)</sup>。現在における学校制服の問題点を改善し、これからの学校に求められる新たな中学校制服はどのようなデザインなのかを追求することを本研究の目的とした。

加藤（2023）では、学校独自の仕様による制服が価格を押し上げていること、ジェンダーへの偏見が残る制服デザインが多様性の問題を解決しないこと、コロナ禍にジャージの利便性が顕著となったことで見えてきた制服の活動性のことなど、今後改善すべき問題点の概要が導き出された。その問題点を解決する新たな中学校の制服デザインの方向性は、フォーマル性の強い制服の着用機会の減少やジャージの利便性から、日常の学校生活に対応した活動的な制服で、ジャージのようにジェンダーレスで取り扱いがやすく家庭への経済的負担のかからないものが求められていると推察した。

加藤（2024）では、より具体的な中学校制服のアイテムごとの問題点と今後に求められる制服のデザインを考察した。アンケート調査から現在着用している制服のデザインや性別などで比較検討し、活動のしにくさ、体温調節のしにくさ、衣服管理のしにくさなどのアイテムにも問題点として主に示された。求めている機能は、ストレッチ性、ウォッシュブル性、形態安定が主なものであった。さらに、今後の制服に望むデザインは、カジュアル性を組み込んだデザインが肯定され、ネイビーやブラックを基調に、明るく活発でアクティブでありながらモダンさのあるイメージを持ち、着用する人の個性や、着用する場面などによって洗練さと品の良さ、可愛らしさ、格好良さなどのイメージも創り出せるような制服デザインであることが求められていると考察した。

本稿では、以上の考察をもとに、これからの公立中学校の新たな制服をデザインし試作品の制作を行なった。試作品は、制服デザイン展示発表を実施し来場者を対象としたアンケート調

査によって評価を受け、その結果を考察した。

## Ⅱ. 中学校制服のデザイン研究

これまでの調査結果と考察をもとに、今後に求められる中学校制服を新たにデザインし構築した。1. 新たな制服デザイン提案のコンセプト、2. 新たな制服デザイン提案の製作、3. 制服デザイン発表展示の3項目に分けて以下に示す。

### 1. 新たな制服デザイン提案のコンセプト

立案する制服デザインは、以下の5点を重視してデザイン計画を立てた。

#### 1). 日常生活において活動的であること

制服を着用する頻度は、各学校の方針によって異なっているが、一般的には制服を着用する多くの時間は、儀式的な場面ではなく日常の活動的な場面での着用である。現在のフォーマル性の高い制服では、活動しにくい、堅苦しいなどという意見が多く<sup>注4)</sup>、これらを解消するために、カジュアル性を取り入れたジャケットやパンツスタイルのデザインを展開することにした。また、コロナ禍において、いわゆるジャージ登校を取り入れる学校が多くなったことから考察した「ジャージの利便性を活用した制服デザイン提案」<sup>1)</sup>を具現化する。

#### 2). シンプルであること

制服は、一般的に保護者の経済的な負担を軽減するメリットのあるものと考えられてきたが、現在では制服費が経済的加重と捉えている保護者も多い<sup>注5)</sup>。そのため、制服価格を下げることを念頭におき、ディティールのデザインや必要な機能を最小限に抑え、シンプルで家庭でも気軽に取り扱えることにも留意した。また、シンプルであることは、長く愛され続けるデザインにもつながりやすい狙いがある。

#### 3). 個性を尊重できること

ジェンダーに対する問題の解決に止まらず、個人の個性を尊重し認め合うことが学習指導要領でも求められている。また、生きる力を育むためには、生徒が主体的に考えられることが必要である。これまでの制服のメリットを活かし、制服が定められてはいるが校則によつての指示で衣服を考えるのではなく、毎日着用する衣服に対して自主性を持って、自身の個性、TPO、その日の天候や気温、体調などによって自由にコーディネートを選べるようにすることも、生きる力を育む一つと考えた。

#### 4). 日本の文化を感じさせること

現在採用が多いブレザー型の制服は、テラードカラーやチェック柄を採用しているものが多くブリティッシュな感覚のものが多い。また、それは高校の制服とも共通する。中、高の差別化のためにも、日本の文化を感じさせるような要素を取り入れ、日常の衣服とは差別化できる独特のイメージが持たれるデザインになることを目標とした。学習指導要領の重視することとして日本の伝統や文化を学ぶことが記されていることにも関連づけている。また、日本の文

化である着物の構造は、体型を選ばず、ジェンダーの問題の解決にも役立つ。

#### 5). サステイナブルであること

今後ますます子供の数の減少が進む社会の中で、現在のままの各学校単位の制服採用では、価格の高騰は免れず、現在でも生徒数の少ない地域では、男女別の制服の改善や価格の見直しなどがし難い状況であることが推測される。これらの問題や、転校による買い替えを防ぎ、リユース率を上げるためには、「スケールを広げた制服採用の提案」<sup>2)</sup>を考えることによって、現在必要性が高い制服の持続可能性につながると考えている。また、それは、制服製造の段階でも無駄を省け、環境問題への配慮や、さらなる価格の低下も期待できる。服装自由化ではなく、制服着用を持続させることは様々なメリットを生み出すと考えている。

## 2. 制服製作研究

以上に挙げたコンセプトを念頭に置きながら、具体的なデザインを構築した。まず、ジェンダレスで提案するアイテムから自由に選択しコーディネートができるということを大前提に考えた。全体のデザインイメージとしては、カジュアルなシルエットでありながらフォーマルなシーンに対応できるスタイリッシュさやモダンさをベースにすることにした。パンツスタイルのボトムスと、明るいカラーデザインを取り入れたシャツ、更には、ジャージも制服アイテムの一つとして捉え、生徒の個性に合わせて選択しコーディネートすることができるデザインになるよう計画した。コーディネートによって、カジュアルでアクティブな装いにも変化でき、取り入れるカラーによっては、格好良さや可愛らしさも醸し出せるようなデザインを目指した。シンプルさを追求し、できるだけディティールデザインを省くようにしたが、中学制服であることが一目でわかるような独特なポイントがあるよう留意した。また、現在の制服には、手の込んだ成長機能などがあるが、出来るだけ簡易的な仕様で価格を下げることに重視した。

以下に、アイテムごとのデザインとパターンメイキング（衣服設計）の特徴、並びに使用した素材についてまとめた。

#### 1). ジャケットデザイン

これまでの制服との大きな違いは、活動性を考えて肩パットの無いゆとりのあるスリーブデザインにしたことである。加藤（2023, 2024）のアンケート調査から、肩周りや腕が動かしにくいという意見が多く見られたことが理由である。袖口はロールアップすることで、作業のしやすさや、直接肌に触れる機会を減らし汚れにくさを考慮したが、成長によって短くなった袖丈を気にしないで着られるという狙いもある。衿がノーカラーであるのは、シンプルさの追求と、中に合わせるインナーデザインを引き立たせるためである。また、少し広めのネックラインにし、直接肌に当たらず、汚れにくいという狙いと冬場に少し厚みのある衣服を着用しても窮屈にならないよう考えてのことである。左身頃には3本のラインを取り入れて、日本の制服としてイメージされるセーラーデザインの名残を残した。セーラーラインは、白を用いたが、制服のベースはネイビーやブラックが好まれるため、白ラインがシンプルなワンポイントでも

あり、また、このラインに夜光性を持たせることで、夜間に分かりやすく危険という指摘にも対応でき安全面も備えることができる。性別に関係なく着られるように打ち合わせは日本の着物の右前を取り入れた。着物の打ち合いのイメージを感じさせることと身幅の成長があった場合にも打ち合い幅を変化させることができるようにした。使用したボタンはセーラーラインと同様の思いで、詰襟学生服に使用されるボタンにしている【図1】。



【図1】ジャケットデザイン



【図2】ベストタイプ



【図3】ベストと  
ジャージの  
コーディネート

パターンメイキングでは、身幅や袖ぐりは、夏場の汗をかく時期には風通しよく、寒い冬の時期では重ね着ができるようなゆとり感を作るようにした。同時に、堅苦しさや窮屈さを感じずストレスのないシルエットであり活動しやすさも考慮した。男女の体型の違いに対して、同様のパターンで着用できること、成長に対応できるパターンであることに重視した。一般的には、成長に対応できるように、大きめのサイズを購入する人が多い。大きめで着用しても、ちょうど良いサイズ感で着用しても様になるよう身幅や丈の調整を行った。また、縫製線が多くなればなるほど、縫製工賃は上がっていくため、縫製線の少ないパターンであることも熟慮した点である。

シンプルさの追求として、ベストタイプのデザインも製作した【図2】。上記のジャケットの袖のないバージョンである。夏場の時期に着用するという意味合いのものではなく、ベストタイプのものが制服の主アイテムとなるということである。本研究のアンケート調査の中には、制服はもっと簡易的な物でも良いのではないかという意見もあったことから立案した。袖がないことで価格も下がり、成長への問題も小さくなりメリットが多く感じられる。袖がないと寒い季節があるため、インナーに厚手の衣服が必要になってくるが、ジャージ、あるいは、校則での規制をしなければ、寒さに合わせて手持ちのトレーナーやパーカーなどを合わせれば済む

のではないだろうか【図3】。儀式の時には、衿付きのシャツを着用すればきちんとした装いに見える。

## 2). ボトムスデザイン

ボトムスのデザインは、パンツスタイルのみの展開にした。男子はパンツスタイル、女子はスカートスタイルというジェンダー性の払拭と日常の活動性を考慮すると、スカートスタイルは理にかなっていないことが多いと考えたためである。夏の暑さや冬の寒さに対応しやすいように、フルレングス、ハーフ、ショート丈の丈のバリエーションでデザインした【図4, 5, 6】。

フルレングスのパンツは、ワンタックにし、ヒップ周りにゆとりを持たせ、活動の妨げにならないよう裾に向かって細くなるテーパードパンツにした。儀式的な場面で着用されることも多いと予想されるため、センタープレスを入れシルエットをきれいにさせるようにしている。ハーフパンツは、ヒップ寸法にゆとりを多めに取り、リラックスさを感じさせるようにしたが、だらしないという感覚が出ないようなゆとり感になるよう考慮した。ショート丈のキュロットは、大きなタックを左足から右足側に取り、ラップスカートのような印象になるようにデザインした。スカートのような印象ではあるが、スカートでの活動しにくさなどを解消できるよう配慮している。

どのパンツスタイルもウエストは後ろウエストをゴム仕様にし、窮屈さの軽減と、成長によるサイズの変化にも対応できるようにした。また、サイドポケットは使いやすさを考え深めの袋にしている。



【図4】フルレングス丈  
タックパンツ



【図5】ハーフ丈パンツ



【図6】ショート丈キュ  
ロットパンツ

## 3). インナーデザイン

ジャケットに合わせるインナーは、生徒に馴染みのあるTシャツやカジュアルに見えながらも正装として理解されやすい印象のボタンドウンのシャツが良いと考えた。シンプルさの追求の一つとして、リボンやネクタイは設定しない。その代わりに、Tシャツやシャツの胸元には、カラーデザインを施し、衿もとの装飾性を出すことにした。Tシャツへのカラーデザインは、シンプルで長方形の色見本のような配色に各学校名を明記するようなデザインをプリントし、シャツには、セーラーラインと同素材のテープで鉛筆をかたどったようなラインを入れた【図7, 8】。Tシャツとシャツの地色や施した装飾部分の色は、生徒自身の好きな色を選べるように色を豊富に展開することを計画している。



【図7】Tシャツデザイン



【図8】ボタンドウンシャツデザイン

## 4). ジャージデザイン

ジャージは、ジャケットとのコーディネートしやすいを考え、ジャケットデザインのように



【図9】ジャージと制服のコーディネート例



【図10】ジャケット／ボタンドウンシャツ／キュロットパンツのコーディネート例



にラインテープを取り入れたデザインとした【図9】。現在のスポーツ衣料は、ハイテクな機能的素材で、色や柄、切替デザインも華やかなものが多いが、そういったジャージデザインでは、コーディネートがしにくいと考えたためである。他メーカーと差別化するためにラインの取り入れ方に多少の変化をつけ、ラインの色はジャケットに使用している白と、ネオンカラーのような黄緑色の2色のラインをつけた。衿は冬の寒さに対応できるようハイネックにもなるデザインであり、袖はラグランスリーブでタイトめでもあって活動しやすいデザインにした。

#### 5). 素材

制服の主体となるジャケットとボトムス、ジャージの素材に関しては、活動性を重視しストレッチ性と軽さ、機能として求められる家庭での洗濯などの取り扱いのしやすさ、耐久性などを踏まえ、ポリエステルを採用することにした。制服には、ポリエステルの他にウールが混紡されていることが多く、混紡率が高くなると上質感も上がっていくが、それに伴って価格も高くなる。今回のデザインは、日常性を重視したデザインであり、価格を下げるのが大きなポイントとなるため、ウールが混紡されていないポリエステル素材で、カジュアルな雰囲気を持ちながらも、フォーマルな場面でも見劣りしないような素材を探求した。ポリエステルは、石油由来の繊維であり、製造段階での二酸化炭素の排出も多く問題のある素材ではあるが、現在では、ペットボトルから製造できるなど繊維のリサイクルもしやすい素材として考えられている。インタビュー調査を行った制服企業においても、繊維のリサイクル事業は進んでおり、着用しなくなった制服から回収した古いポリエステル繊維で再生ポリエステル原料をつくり、新たな衣服を製造するといった衣服の再資源化を実現し石油の使用削減に努めている。今回使用するものは、再生ポリエステルではないが、このようなポリエステル素材が製造され使用していくことで、制服のサステナブルファッション性が高まると考えている。

その他、インナーに合わせる素材は、天然繊維である綿素材を主とした。アウターにあたるものがポリエステルであるため、肌に直接触れるものは天然繊維である綿である方がトラブルが少ない。安価であることも綿のメリットであり、帯電性も抑えられ、吸湿性や保温性なども高められる。今回は、Tシャツとシャツは市販のものからリメイクする形を取ったが、綿100



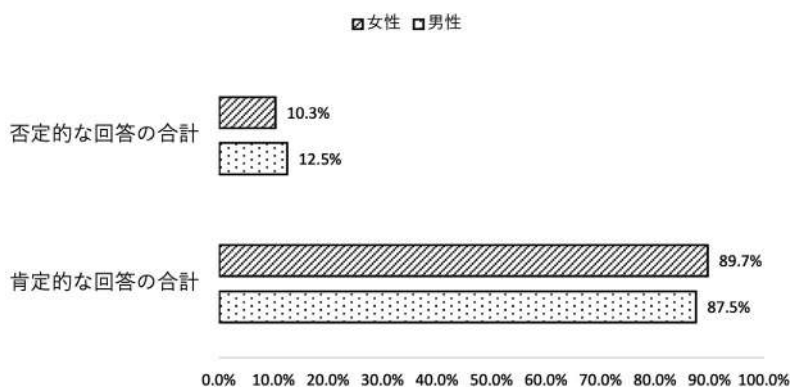
【図11】制服デザイン発表展示

%の天竺ニットTシャツと綿100%の素材に形態安定加工のされたシャツを選んだ。

### 3. 制服デザイン発表展示

2022年11月23日から11月29日までの期間と、2023年1月5日から1月11日の期間の2期に渡って、制服デザイン発表展示を行った【図11】。展示会場では、来場者を対象に発表した制服デザインに対するアンケート調査を実施した。10歳代6名（男性2名、女性4名）、20歳代17名（男性3名、女性14名）、30歳代1名（女性）、40歳代5名（男性1名、女性4名）、50歳代4名（男性1名、女性3名）、60歳代3名（男性1名、女性2名）、70歳代1名（女性）の合計37名からの回答が得られた。以下にその結果と考察を示す。

カジュアルなシルエットデザインが公立中学校の制服としてふさわしいかという問いに対して、肯定的な回答（良い、あるいは、まあまあ良いと回答した合計。以下同様に示す。）は、全体で89.2%であった。図では、性別比で示しているが、大きな差は見られない【図12】。「オシャレで着やすそう」、「動きやすく、スタイリッシュな感じが好き」、「シンプルで良い」、「制服代が今より安くなりそう」「成長時のサイズ心配が安心」「偏るより誰もが着られるようなワンポイントを添えた感じがとても素敵」「洗濯がしやすそう、軽い」などの理由が記載されており、こちらの意図としたコンセプトが表現できていた結果となった。あまり良くないと回答のあった理由としては、「まだわからない」、「腕捲りをしているが、機能的には良くないと感じる」という意見があり、見慣れない制服デザインへの迷いや、機能性への指摘もあった。「ベストは良いが袖が付くと、寿司職人のようだ」との記載もあったが、日本的なイメージと一般的な衣服ではなく制服としての特有なイメージとして捉えられた結果だと考えている。

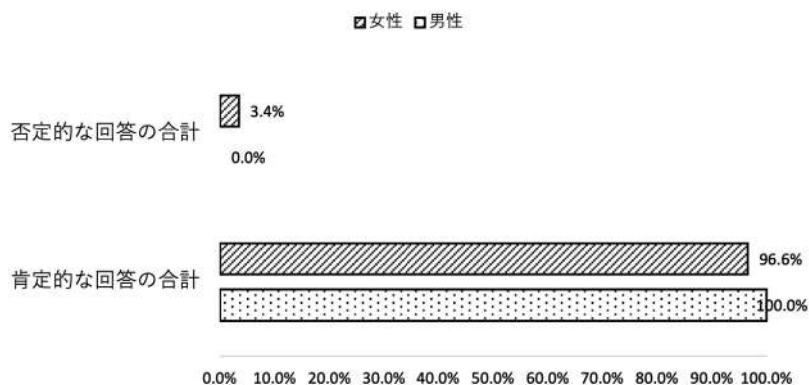


【図12】 カジュアルなシルエットデザインが公立中学校の制服としてふさわしいと思うか？について

性別に関係なく着用できるタイプのデザインに対しては、肯定的な回答が全体で97.3%であった。性別の差も大きく見られないが、男性からは全員が賛同いただける結果となった【図13】。「男女差別がなくなる」、「女子男子に関係なく着たい形を着たら良い」「ジェンダーレスの時代」などの理由が記載されており、今後、制服は男女兼用であることは必須条件と考えられる。し

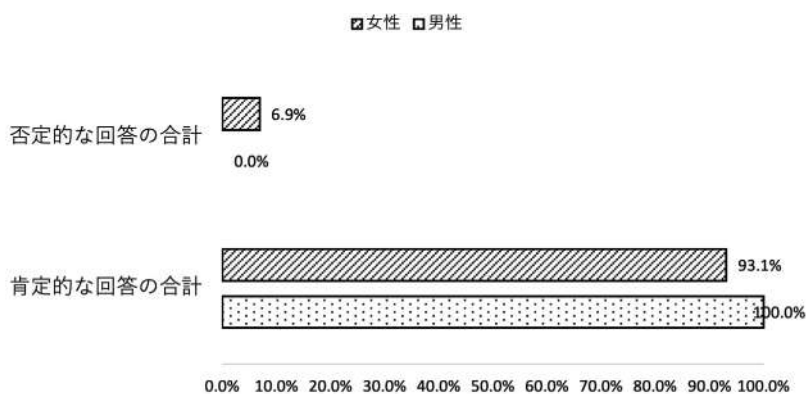


かし、「自分らしさを出す手段の一つとして必要。しかし、女性はスカート、男性はパンツという固定概念の強い人から何か言われる可能性もある」という過去のジェンダー意識の強さを懸念している意見も見られた。



【図13】性別に関係なく着用できるタイプのデザインをどう思うか？について

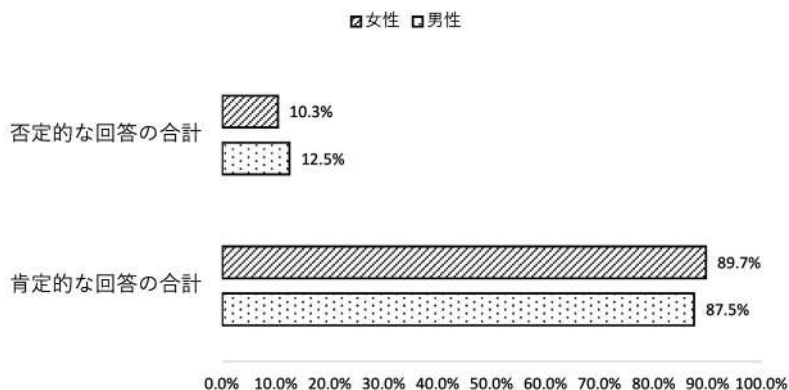
ジャケットの肩パットがなく肩周りに活動性をもたせたデザインに対しては、肯定的な回答は全体で94.6%であった。特に男性からの支持が高い【図14】。その理由としては、「肩パットが邪魔だと思っていたのですごく良い」、「学生服において肩パットの必要性を感じたことがない」、「休み時間により好きなことができる」、「動きやすい方が絶対に良い」などがあり、学校の日常生活での活動しやすさが求められていることを強く感じ取れた。また、「勉強しているときに肩が凝らなくて良い」、「肩パットを入れた制服を着ていて肩こり頭痛を起こしたことがある」と肩パットがあることで健康を損ねていた経験のある人が多いこともわかり、肩パットのある堅苦しいジャケットの改善は急務であるように感じられた。



【図14】ジャケットの肩パットがなく肩周りに活動性を持たせたデザインをどう思うか？について

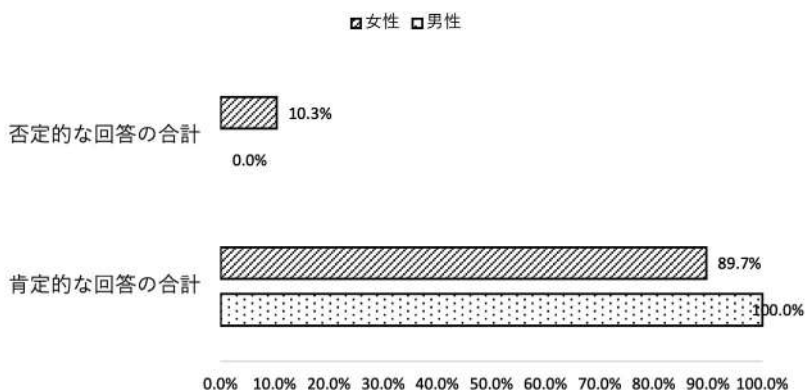
ジャケットの合わせを男女ともに日本の着物の合わせである右前（右身頃に左身頃を重ねる）と同様にしたことに関しては、肯定的な回答は全体で89.2%であった。性別での比較の差もほ

とんど見られない【図15】。「男女兼用は親にとって助かる」、「特に気にならない」、「日本らしさを感じられる」「日本の伝統的な着物に興味を持つきっかけとなる」という理由が述べられていた。西洋に見られる前合わせのしきたりに倣ってきたことで、性差が強調されてきたが、日本の文化を取り入れることで解消され、また、若い世代への日本文化への興味を持たせるきっかけとなるという意図も受け入れられた。



【図15】 ジャケットの合わせを日本の着物の合わせと同様に性別に関係なく右前（右身頃に左身頃を重ねる）にしたことをどう思うか？について

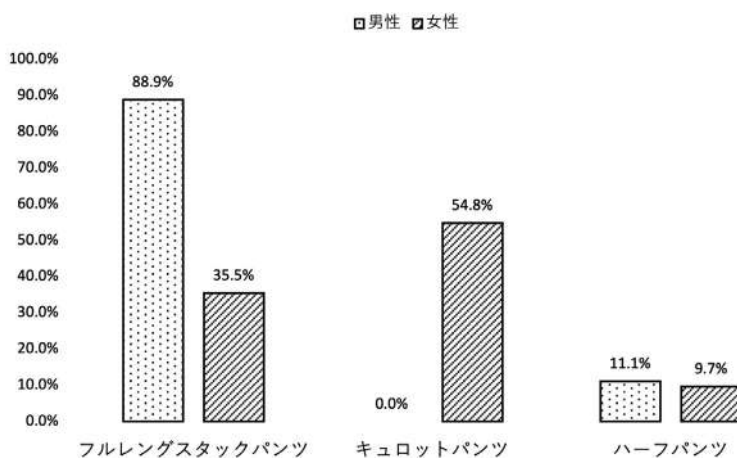
袖のないベストタイプのジャケットが制服であることに関しては、肯定的な回答は、全体で91.9%であった。この回答でも、男性からの支持が高く、男性は、より活動的な衣服を求めていることが窺えた【図16】。「ベストにすることでデメリットを感じない」、「ジャケットを着るのが好きではないのでそういう制服があったら良い」、「動きやすそう」、「かっこいい!」、「着やすそう」、「袖が短くなるトラブルがなくて良い」という肯定的な意見が多い一方で、冬場の寒さへの対応への疑問が挙がっていた。展示会場では、その説明が不足しており、3-1)で説明したベストのインナーにジャージなどを着用することで対処することが伝わらず反省し



【図16】 袖のないベストタイプのジャケットが制服でも良いと思うか？について

ている。しかしながら、ベストタイプへの感触はよく、活動性、成長への配慮、価格削減への手がかりになると考えられた。

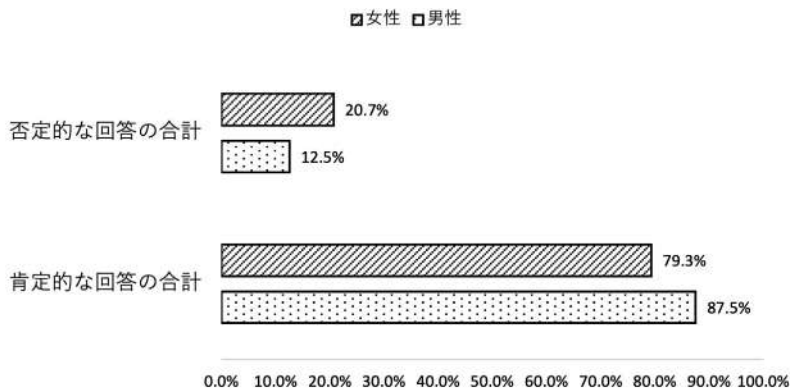
ボトムスのデザインは、フルレングス、ハーフ、ショート丈のパンツスタイルのみのバリエーションの中から、着用したいものを複数回答で求めた。全体では、〈フルレングスタックパンツ〉47.5%、〈キュロットパンツ〉42.5%、〈ハーフパンツ〉10.0%という結果となった【図17】。男女比で見ると、男性は、〈フルレングスタックパンツ〉88.9%、〈ハーフパンツ〉11.1%となっており、キュロットパンツを選択した人はいなかった。ハーフパンツを選択した人は、フルレングスタックパンツも併せて選択しており、「夏と冬で着分けできるから」という理由が挙げられていた。こちらの意図する選択をしているが、そのように選択をする男性が少なかったのは、「春夏秋冬着用できる」、「冠婚葬祭や冬を意識したため」、「長いと安心感がある」という理由が挙げられていたことから、男性が未だオフィシャルやソーシャルな場面で足を出す装いをするに抵抗感が高いことが窺える。女性は、〈フルレングスタックパンツ〉35.5%、〈キュロットパンツ〉54.8%、〈ハーフパンツ〉9.7%であり、女性ではキュロットパンツに人気が集まる予測と一致はしていたものの、フルレングスタックパンツを選択する人も予想以上に多かった。フルレングスタックパンツを選んだ理由としては、「自分自身があまりスカートが好きではないから、動きやすいから」、「冬に着られる」「足を出すのが嫌な人もいるから」ということが挙げられており、LGBT+Qの問題にかかわらず、フルレングスタックパンツを選択したい女性は多くいる。〈キュロットパンツ〉では「新しさを感じる」、「可愛くて動きやすそう」、「スカートかつパンツというところが良い」、「風が強い日でも気にせず着られるから」、「スカートより動きやすそう」、「階段の昇り降り等で気にならなくて良い」という理由が挙げられており、スカート同様の可愛らしさと活動性を感じ取ってもらえた結果となった。また、ハーフパンツとキュロットスカートを併せて選択した女性からは、「センタープレスがないので気軽に



【図17】 制服ボトムスのデザインのうち、着用したいと思ったデザインについて（複数回答）

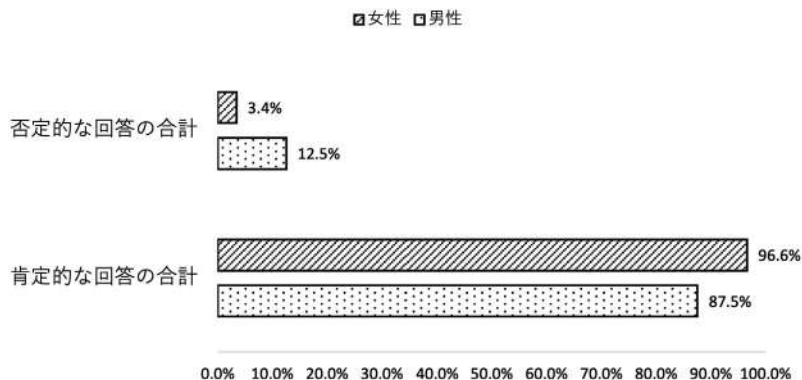
履ける」という取り扱いの観点からの理由もあった。

ボトムスのデザインがパンツスタイルのみであることについては、肯定的な回答した割合は全体で81.1%であった。性別で比較すると、女性は79.3%とやや低い割合となった【図18】。肯定的な回答の理由としては、「活動的で良い」、「北海道は寒いから良い」、「スカートは寒い」、「スカートもあって選択できれば尚良い」、「スカートが苦手な人もいるし、避難時などで機動力がある」、「問題を感じない」、「男女誰でも着られて良い」などであった。否定的な回答の理由としては、「スカートを履きたい人もいる」、「スカートを着たい男子もいる」、「男女で着られるスカートが必要」などがあつたが、パンツスタイルのみで良いという肯定的な意見が多いのであれば、活動しにくい、寒い、性的観点からの防犯性、災害時などを考慮すると学校教育の場にあえてスカートを選択肢に置く必要がないと考えている。



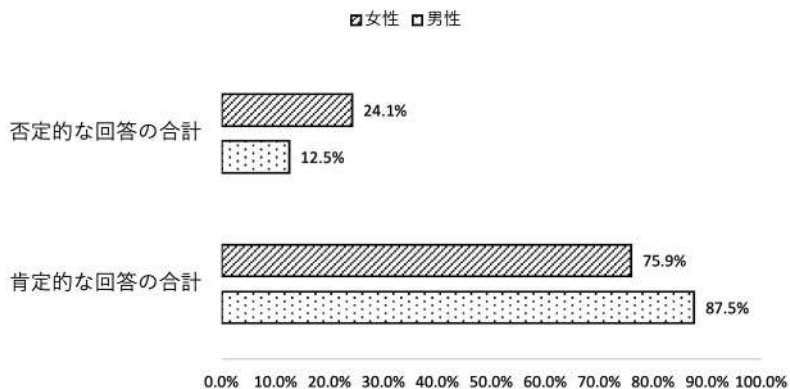
【図18】ボトムスデザインがパンツスタイルのみであることをどう思うか？について

決められた制服アイテムのなかで自由に選択し自由にコーディネートができることに対しての回答は、肯定的な回答をした割合は、94.6%であった。女性の方がその割合が10%ほど高く、女性の服装への興味が高いことに起因していると考えられた【図19】。理由としては、「制服の自由度があることで変に縛られた感じがなくて生徒にとって良い」、「冬はもっと色々重ね着しても良い校則だと嬉しい」、「自分らしさを出せそう」、「中学生からファッションを楽しんでもらいたい」、「少し服に興味を持たせる機会になる」、「ワイシャツが苦手だったり、Tシャツが苦手だったりする人もいると思う」、「気分に合わせて着られるので飽きない」、「問題を感じない」、「学生が選べるというのは意志の尊重になるので良い」、「その日の気分や天候で変化することができて良い」などだった。否定的な回答の理由としては、「どれほどまで個性を出して良いのかわからない」、「学校の問題となり教員に更なる負担をかける場合もあるため自由にとるのは難しい」、「統一性が欲しいから」であった。



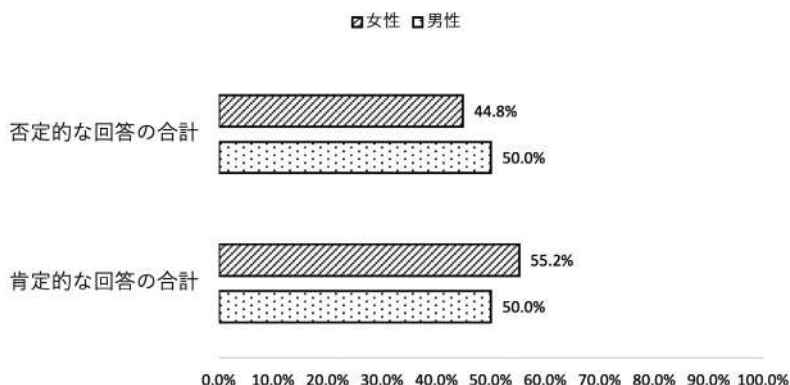
【図19】決められた制服アイテムのなかで自由に選択し自由にコーディネートができることに対してどう思うか？について

制服とジャージをコーディネートできることに関しては、肯定的な回答をした割合は、全体で78.4%であった。他の項目に比べると低い割合ではあるが、男性は87.5%であり、女性よりも受け入れている【図20】。理由としては、「中学生の年代は、自由で気軽に着られることでコーディネートの楽しさにもなり良い」、「活動しやすい」、「地域によるが、ジャージ登校の中学校もあるので、コーディネートできれば良い」、「実習などの授業でジャージが組み合わせられると洗濯などが簡単で良い」、「このくらい自由度があって良い」であった。否定的な理由としては、「だらしく見える」、「少しダサいと感じた」、「ジャージである理由は、動きやすいこと、汚れても洗いやすいことなので、あえて上下合わせる場面はない」、「ピシッとしているのに対し、片方はゆるっとしていて、あまり合わないのでは」であった。肯定的な意見は低くないものの、衣服としての、ジャージと制服のこれまでの役割からすると受け入れ難い人も多いようだが、ジャージと制服をセットで捉えたデザインを熟考することで、肯定的な理由で挙げられていたようなメリットが伝わりやすくなると感じた。



【図20】制服とジャージをコーディネートできることに対してどう思うか？について

価格を下げる、転校による買い替えを防ぐ、リユース率を増やすなどの目的で、制服のデザインを北海道や振興局などの大きな単位で決定し、どの中学校も同じ制服にすることに対しては、肯定的な回答は、54.1%であり、賛否分かれるものとなった【図21】。肯定的な意見としては、「合理的で良い」「実現できるなら、転勤族、親は助かるが、子供たちはどうなのだろうか。管内での統一くらいなら良いのでは」、「どの中学校かわかるようなポイントがあると良い」、「自分が転校で苦労したから」などであった。否定的な意見としては、「どの学校所属か分かりにくい」、「何かあった時の手がかりにならない」、「それぞれの学校の良さがあるので」、「学校をしっかり背負って、街中でも行動することが大切」、「学校を選択する理由になるから」、「悩む、わからないというのが本音」などであった。制服のデザインベースは同じで、校章などをはっきりつけることやインナーの色を変化させることなどによって各学校の区別をつける目印があれば、現在考えられている問題点は解消できる。学校単位ではなくスケールを大きくした制服決定は、他県でも行われているように北海道でも十分に可能であると判断できる。



【図21】 価格を下げる、転校による買い替えを防ぐ、リユース率を増やすなどの目的で制服のデザインを北海道や振興局などの大きな単位で決定し、どの中学校も同じ制服にすることは良いと思うか？について

### Ⅲ. ま と め

本研究は、北海道における中学校制服の現状を捉え、未来における制服のデザインを提案することを目的に行なってきた。制服の概要と学校制服の歴史や先行研究をふまえるとともに繊維ファッション業界が抱えている問題にも目を向け、制服の様々な問題点と新たな必要性に注目した。現在の北海道における中学校制服の問題点を明らかにするために、公立中学校の生徒とその保護者、教員を対象にアンケート調査を実施し、今後の中学校制服デザインの方向性や求められるデザイン要素が導き出された。

本稿では、以上を踏まえ、新たな中学校制服をデザインするにあたりコンセプトを立案した。日常生活において活動的であること、シンプルであること、個性を尊重できること、日本の文化を感じさせること、サステナブルであることをコンセプトにデザインし、フォーマル性と



カジュアル性を包含し、モダンでありながら組み合わせるアイテムによって、明るくスポーティな印象にもなるよう計画した。フォーマル性を残しながら、コロナ禍で着用機会が増えたジャージの利便性を組み合わせ、制服ジャケット、制服ボトムス、ボタンドウンシャツ、Tシャツとジャージ上下を自由にコーディネートできることもポイントである。インナーに着るシャツやTシャツには、色展開を持たせ選ぶ色によっても個性を打ち出せるようにした。実際に製作した試作品の展示発表でのアンケート結果からは、多くの肯定的な回答が寄せられ、求められている制服デザインの構築がねらい通りに表現でき、社会的にも受け入れられる可能性を見出す成果があったと考えている。

反省点としては、デザインのバリエーションを提案できなかったことや、試作した制服の着心地の評価や、耐久性、洗濯による形態安定性、実際にどれだけの価格が削減できるのかなど、明確な実証ができなかったため、今後の研究課題として捉えている。

今後の展望として、制服が儀礼的な場面で一番役立つものとしての位置付けを覆して良いのであれば、学校制服がジャージ的なものである方がより日常の利便性が広がるのではないかという案も考えられた。日常の学校生活においてジェンダーレスにカジュアルで活動的で気軽に着用でき、尚且つ体操着としての役割も果たせるような制服があっても良いのではないだろうか。ジャージ的でカジュアルなものは、価格も下げられ取り扱いもしやすい。北海道においては、冬場の季節に合わせた防寒性の機能もつけやすい。しかしそれには、公立中学校での儀式的な場面での服装の固定観念を変えていくことが必須であり、困難な課題であるのかもしれない。

研究を進めていく中で、学校教育での教材として制服を活用するという新たな課題も見つけた。制服を着用すること自体がサスティナビリティにつながる活動であることや、ジェンダーの意識について考えるなど、制服は、身だしなみの教育に限らず、道徳教材としての活用方法なども提案できる可能性がある。

公立中学校の制服を切り口に制服デザインを研究する中で、日本の学校教育の現状や課題、繊維ファッション業界や制服企業が抱えている問題にも直面し、学校制服を取り巻く環境は大きく変貌を遂げようとしていることを実感した。学校制服は、社会背景によって少しずつその姿を変化させてはきたが、これまでの制服にある固定観念に縛られず、制服の在り方も大きく改革される時期であると捉えている。今回の研究がその一途となれば幸いである。

## 謝 辞

制服デザイン発表展示にお越しいただきアンケート調査にご協力をいただいた皆様に心から感謝申し上げます。

## 注

- 注1). 加藤万紀「これからの学校に求められる制服デザインの方向性ーコロナ禍における公立中学校の制服に対する意識調査からー」『北翔大学北方圏学術情報センター年報』vol.15 2023年
- 注2). 加藤万紀「これからの学校制服に求められるデザイン要素ーコロナ禍における公立中学校の制服に対する意識調査からー」『北翔大学教育文化学部研究紀要』第9号 2024年
- 注3). 注1に同じ p23
- 注4). 注1に同じ p20-22
- 注5). 注1に同じ p18-20

## 引用文献

- 1). 加藤万紀「これからの学校に求められる制服デザインの方向性ーコロナ禍における公立中学校の制服に対する意識調査からー」『北翔大学北方圏学術情報センター年報』vol.15 2023年 p25
- 2). 1)に同じ p26

## 参考文献

- 1). 文部科学省「中学校学習指導要領」平成29年
- 2). 株式会社明石スクールユニフォームカンパニー「SDGsへの取り組み」  
<https://akashi-suc.jp/index.html>